棒灸用具　取扱説明書

このたびは、棒灸用具シリーズ（棒灸ホルダー、温灸ボックス、経絡温灸棒）をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
ご使用前に本説明書をお読みになり、正しくお使いください。

000-0456 棒灸ホルダー　Sサイズ／1孔
000-0457 棒灸ホルダー　Mサイズ／2孔

同梱物
①本体
②ゴムバンド

❏組立て方・使用方法

1.

身体の上にタオルを敷き、その上に設置します。

2.

棒灸に火を付け、火が付いている方を下にして差し込みます。
※奥の金網に棒灸の先端が触れないようご注意ください。

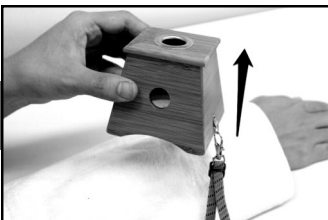
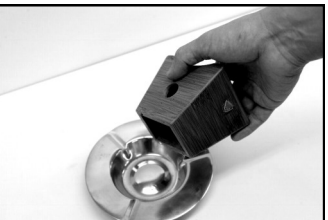
3.

使用中、棒灸の様子をこまめに確認して下さい。

※長時間使用すると、棒灸が短くなり、本体から外れてしまう可能性があります。また、燃焼したまま放置すると、やけど、低温やけどや火災につながる恐れがあります。
※使用中に身体をむやみに動かすと、やけど等の恐れがあり大変危険です。

※

必要に応じて、バンドを取り付けてご使用ください。

※付属のバンドは、腕や脚などに取り付けるためのものです。お腹や背中など広い部位には取り付けられません。
※バンドをつけていても、バンドの長さ調整しだいではしっかりと固定されないことがあります。使用中はバンド装着の有無にかかわらず、身体をむやみに動かさないでください。

❏！注意！
棒灸ホルダーと棒灸irodoriシリーズを併用する場合

棒灸irodoriシリーズ **MOEGI / TOKIWA** は、もぐさの精製率が非常に高いため、**従来の棒灸よりも燃焼速度が速く**なっております。
そのため、MOEGI / TOKIWAを用いて棒灸ホルダーに入れて長時間使用すると、左図のように使用中に棒灸が折れることがあります。その際は、**こまめに棒灸を差し込み直してください**（差し込む際、先端部が網に触れないよう、ゆっくり差し込んでください）。棒灸ホルダーを長時間使用する方には、MOEGI / TOKIWAよりも燃焼速度の遅い**温灸純艾條**などのご使用を推奨いたします。

❏使用後

1.

棒灸を本体から抜き取ります。
使用した棒灸は確実に消火してください。

2.

本体を身体から取り外します。

3.

使用後は、本体内部の灰を捨ててください。

❏使用上のご注意

【警告】
●火を使う特性上、やけど、低温やけどの危険があります。商品瑕疵以外のやけどによる責任は負えません。●長時間同じ場所に使用せず、棒灸の状態をこまめに確認して下さい。●使用中、細かな灰等が落ちる可能性があります。肌に直接使用せず、タオル等の上からご使用ください。●使用中、身体をむやみに動かすと、本体が倒れるなどしてやけどをする可能性があります。●火災の危険があります。使用後は、消火を十分にご確認ください。

【注意】
○使用中は十分に換気をしてください。○以下に該当する場合は使用をお控え下さい。肌に異常がある時、体調不良時、肌に水気（汗など）がある時、酒酔い時。○以下に該当する方は、医師等とご相談の上、十分注意してご使用ください。妊娠の可能性のある方、体力の低下している方、ご自分で温度調節のできない方、幼児、動物。

000-0458 温灸ボックス　Sサイズ
000-0459 温灸ボックス　Mサイズ

同梱物
①本体
②ゴムバンド
③木製ハンドル・ハンドル用ねじ

❏組立て方

1.

本体裏側のねじ穴から、ねじを差し込みます。

2.

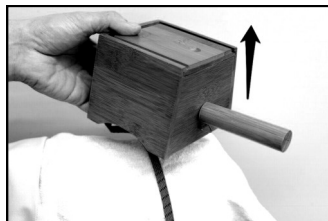
ねじを裏側から押さえながら、ハンドル部分を外側から取り付け、右回転させてねじ止めします。※ねじを強く回しすぎると、本体が破損する恐れがあります。

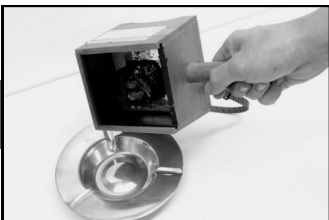
3.

必要に応じてバンドを取り付けてください。

※付属のバンドは、腕や脚などに取り付けるためのものです。お腹や背中など広い部位には取り付けられません。
※バンドをつけていても、バンドの長さ調整しだいではしっかりと固定されないことがあります。使用中はバンド装着の有無にかかわらず、身体をむやみに動かさないでください。

❏使用方法

1.(A)

（短くなった棒灸を使う場合）
火を付けた棒灸を本体に入れます。

1.(B)

（もぐさの場合）
もぐさを必要なだけ入れ、着火器等で火を付けます。
※必要以上のもぐさを入れないようご注意ください。

2.

身体の上にタオルを敷き、その上に設置します。（バンドを使用する場合は、バンドを身体に取り付けてください）

※燃焼したまま放置すると、低温やけどや火災につながる恐れがあります。
※使用中に身体をむやみに動かすと、やけど等の恐れがあり大変危険です。お腹や背中など、バンドを付けられない箇所に置く場合はとくに注意してください。

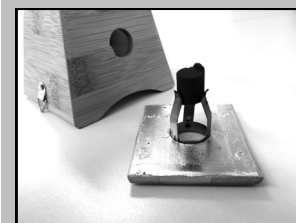
❏使用後

1.

完全に燃え尽きていることを確認の上、身体から取り外します。

2.

使用後は、本体内部の灰を捨ててください。

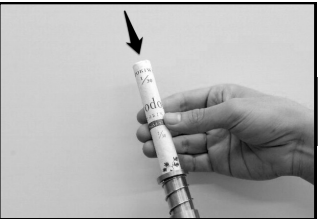
❏ヒント
短くなった無煙棒灸を使う場合

短くなった無煙棒灸RINDOUに火をつける際は、**棒灸ホルダー**の蓋をお使いください。蓋を裏返し、左のように無煙棒灸をセットすると、安全に着火することができます。

❏使用上のご注意

【警告】
●火を使う特性上、やけど、低温やけどの危険があります。商品瑕疵以外のやけどによる責任は負えません。●長時間同じ場所に使用せず、内部の状態をこまめに確認して下さい。●使用中、細かな灰等が落ちる可能性があります。肌に直接使用せず、タオル等の上からご使用ください。●使用中、身体をむやみに動かすと、本体が倒れるなどしてやけどをする可能性があります。●火災の危険があります。使用後は、消火を十分にご確認ください。

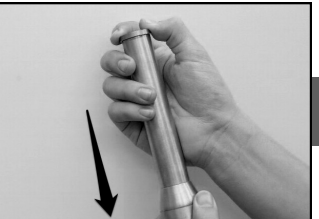
【注意】
○使用中は十分に換気をしてください。○以下に該当する場合は使用をお控え下さい。肌に異常がある時、体調不良時、肌に水気（汗など）がある時、酒酔い時。○以下に該当する方は、医師等とご相談の上、十分注意してご使用ください。妊娠の可能性のある方、体力の低下している方、ご自分で温度調節のできない方、幼児、動物。

000-0460 経絡温灸棒

同梱物
①本体
②L型六角レンチ
③清掃用スチールウール

❏使用方法　※やけどに十分ご注意ください！

1.

棒灸に火を付けます。
※短くなった棒灸は使用できません。

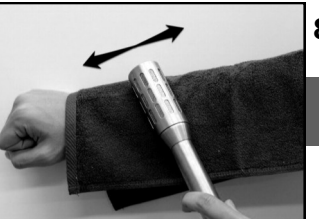
2.

本体を下向きにし、棒灸を、火が付いている方を下にして差込口に挿入します。

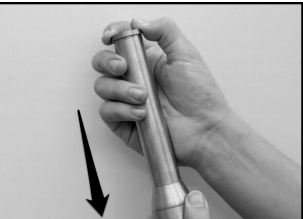
3.

差込口の縁に指をあてがい、強く押し込みます。
※差込口の中に指を差し込まないでください。

4.

差込口を押しこむと、棒灸が奥まで入り込みます。
※棒灸がうまく入り込まない場合は、**※上記の方法で棒灸が取り外せない場合**の**4.**をお試しください。

5.

棒灸が奥まで入り込んだら、**差込口から手を離して**ください。棒灸が適切な位置で固定（ロック）されます。

6.

身体の上に厚手の布を置くなどし、その上で本体を転がしてください。
※やけど防止のため、タオルなど厚手の布の上で使用することを強くおすすめします。

7.

転がさないでいると温度が上がりすぎることがあります。**使用中は常時回転**させてください。
※表面温度および棒灸の状態をこまめに確認して下さい。使用中、温度が高くなりすぎた場合は、タオル等の上で数回転がすか、❏**使用後**の手順で棒灸を取り外してください。

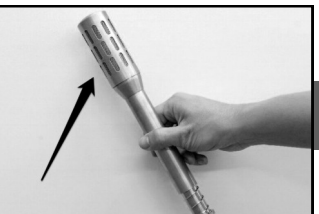
8.

棒灸が短くなった場合は、**4.**と同様に**差込口の縁を押し込む**と、再び使用可能になります。
※棒灸が**1/3程度の長さ**になっている場合は、新しい棒灸に交換してください。また、燃焼したまま放置すると、やけど、低温やけどや火災につながる恐れがあります。

❏各部位の説明

※本体下向き時

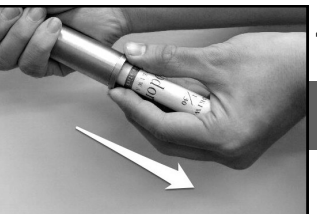
◆差込口
ここの縁部分（※）を押しこむと、内部で棒灸のロックが解除され、棒灸の挿入・取外しが可能になります。
（※）**穴に指を入れないでください。穴ではなく、必ず縁部分を押し込むようにしてください。**

◆ばね部分
棒灸が取り外せなくなった場合は、ここを引き抜きます。

◆ハンドル
使用時は、ここをお持ちください。

◆回転部分
使用時は、ここを体に当てます。
使用中はこまめに温度を確認してください。

◆レンチ穴（灰排出口）
ここに付属のL型レンチを挿入します。
ここを取り外すと、内部の灰を捨てることができます。

❏使用後

1.

本体を上向きにします。

2.

差込口の縁に指をあてがい、強く押し込みます。
※差込口の中に指を差し込まないでください。

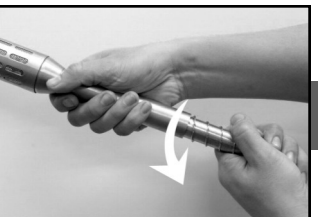
3.

差込口を押し込むと、棒灸が差込口まで落ちてきます。**※棒灸が出てこない場合は、下記を参照してください。**

4.

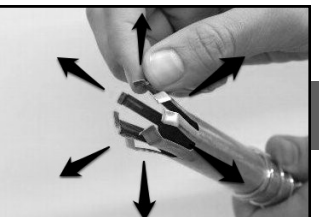
棒灸を本体から引き抜きます。
※このとき、内部の灰が出てくることがありますので、ご注意ください。

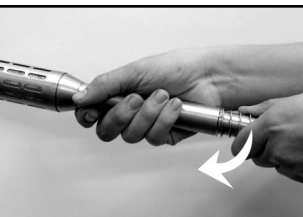
5.

棒灸を確実に消火します。
※「新火消しつぼ」を使用して消火する際は、**「差し込むだけ」では消火されない場合があります。着火部分を押しつぶすように、10秒ほど強く押し込み続けることで消火できます。**

※上記の方法で棒灸が取り外せない場合　（※棒灸が取り外せない場合でも、差込口に指などを深く差し込まないでください）

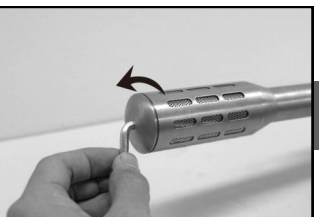
1.

本体の**差込口**と**ばね部分**を握ります。

2.

ばねの向きに沿って、左回りに回しながら引き抜きます。
※このとき、内部の灰が出てくることがありますので、ご注意ください。

3.

棒灸を取り外し、すみやかに消火してください。
※やけどに十分ご注意ください。

4.

写真の部分を指で少し広げておくと、棒灸の挿入・取外しがスムーズになります。

5.

取り外した後は、本体の差込口部分とばねの部分を握りつつ、強く押し込みながら左回りに回して、元の状態に戻します。

❏お手入れ

1.

本体上部の灰排出口に付属のL型六角レンチを挿入し、左回りに回すと、灰排出口が取り外せます。
※使用後しばらく冷ました後で行ってください。

2.

付属のスチールウールを本体内部に入れ、灰を掃除します。（ピンセット等をお使いください）
※市販品の、ガラス瓶掃除用のブラシ等もお使いいただけます。

❏使用上のご注意

【警告】
●火を使う特性上、やけど、低温やけどの危険があります。商品瑕疵以外のやけどによる責任は負えません。●温度が高くなりすぎることがありますので、製品表面の温度および棒灸の状態はこまめに確認して下さい。●温度が高くなりすぎた場合は、タオル等の上で数回転がすか、棒灸を取り外してください。●火災の危険があります。ご使用後は、消火を十分にご確認ください。

【注意】
○使用中は十分に換気をしてください。○棒灸差込口に指などを深く差込むと、抜けなくなる恐れがあります。○以下に該当する場合は使用をお控え下さい。肌に異常がある時、体調不良時、肌に水気（汗など）がある時、酒酔い時。○以下に該当する方は、医師等とご相談の上、十分注意してご使用ください。妊娠の可能性のある方、体力の低下している方、ご自分で温度調節のできない方、幼児、動物。

❏製品仕様

000-0456 棒灸ホルダー　小／1孔
000-0457 棒灸ホルダー　中／2孔
000-0458 温灸ボックス　小
000-0459 温灸ボックス　中
本体：竹
金網その他：ステンレス

000-0460 経絡温灸棒
本体：黄銅
回転軸・ばね：ステンレス

❏輸入販売元

トワテック株式会社
〒113-0033　東京都文京区本郷2-3-7
お茶の水元町ビル2階
TEL：0120-609-151
FAX：0120-609-655